

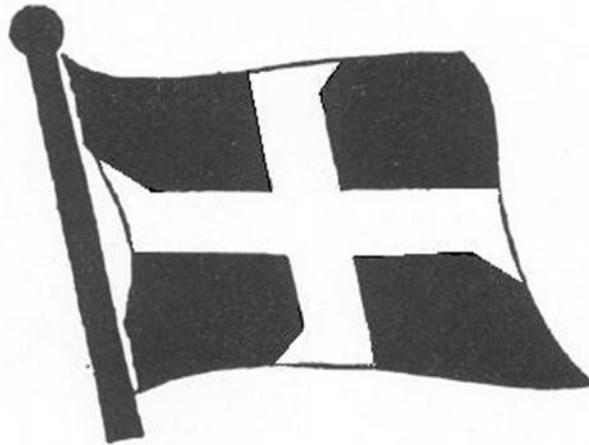
# No.2

## 関西インカレ総括号

---

平成 24 年 5 月 20 日発行

---



~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新 入 部 員 紹 介

## 主将挨拶

先日行われました関西インカレにおいて、京都大学は 139.5 点と例年なら優勝が狙えるほどの得点をしました。しかし、京都教育大・びわスポ大に敗れ 2 部 3 位となり、1 年間目標として目指してきた 1 部昇格を果たすことが出来ませんでした。

個人では 2 冠をした小山(M2)や西村(3)、複数種目で表彰台に上がった牧川(3)、平井(3)を始めとして多くの方が実力を出し切りました。また両りレーでは、4\*100mR において蒼穹新且つ全日本インカレの標準を切って優勝、4\*400mR では最後昇格できないことが分かっている中で 2 位と健闘するなど、チームとして強いチームが出来上がっていたと思います。しかしながら、投擲やハードル、ウォークなど得点が 0 に終わる種目も多く目立ちました。1 部に上がるためには、全ての種目で少しずつでも得点するバランスの良さが必要だと実感しました。来年の 1 部昇格、次に来る七大会での優勝に向け、チーム全体での苦手種目を無くし、各種目 2 番手 3 番手の充実に目指し部員一同努力を重ねていきたいと思っております。

最後になりますが、多くの蒼穹会の皆様が応援に足を運んでいただいたことに部員を代表して心から感謝いたします。力になりました。今後ともご支援ご声援のほどよろしくお願ひします。

京都大学陸上競技部主将 水元惟暁

## 監督挨拶

5月10日から13日に行われた関西インカレトラック・フィールドの部が終わり、ロードの部と合わせて今年度の関西インカレの全日程が終了いたしました。京都大学は1部昇格を目指して戦いましたが、残念ながら総合3位に終わり、目標の達成は叶いませんでした。

京都大学の総合得点は139.5点で、これは例年であれば1位で1部に昇格できる得点です。部員それぞれに反省点、満足できない点もあるでしょうが、選手、応援、マネージャー全員が死力を尽くして戦った結果であり、これを上回った京都教育大、びわスポ大が強かったと言わざるを得ません。また、女子に関しては今大会も得点を挙げることはできませんでしたが、出場した選手は強い選手と競うことでいい経験が得られたかと思います。この経験をただの経験だけで終わらせず、今後活かしてますます精進してもらいたいと思います。

今大会、小山俊(長,M2)や牧川(短,3)、西村(跳,3)らの多種目にわたる活躍、4×100mRでの蒼穹新記録を樹立しての優勝など、多くの輝かしい成績がありました。このチームは確実に強くなっております。今後チームとしては2ヵ月後の七大会に向かっていくこととなりますが、今回の悔しさを忘れることなくよりいっそう努力し、強くなって、必ずや総合優勝を果たしてみせます。

今年も4日連続という厳しい日程でありながら多くの先輩方が駆けつけてくださり、力を頂きました。誠にありがとうございました。今後ともどうか変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督 前田 峰尚

## 第89回関西学生陸上競技対校選手権大会

### **男子2部総合成績** (上位8校のみ)

|           |            |               |
|-----------|------------|---------------|
| 1位        | 京都教育大      | 168点          |
| 2位        | びわスポ大      | 155.5点        |
| <b>3位</b> | <b>京都大</b> | <b>139.5点</b> |
| 4位        | 神戸大        | 94点           |
| 5位        | 大阪府立大      | 40点           |
| 6位        | 佛教大        | 37点           |
| 7位        | 大阪経済大      | 31点           |
| 8位        | 大阪市立大      | 30点           |

### **男子2部トラックの部**

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 京都大   | 104点 |
| 2位 | びわスポ大 | 93点  |
| 3位 | 神戸大   | 71点  |

### **男子2部フィールドの部**

|           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| 1位        | 京都教育大      | 82点          |
| 2位        | びわスポ大      | 51.5点        |
| <b>3位</b> | <b>京都大</b> | <b>32.5点</b> |

### **男子2部混成の部**

|           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 1位        | 京都教育大      | 21点       |
| 2位        | びわスポ大      | 11点       |
| <b>3位</b> | <b>京都大</b> | <b>3点</b> |

### **男子1部総合成績**

|     |       |      |
|-----|-------|------|
| 1位  | 関西学院大 | 164点 |
| 2位  | 立命館大  | 144点 |
| 3位  | 大阪体育大 | 126点 |
| 4位  | 関西大   | 99点  |
| 5位  | 京都産業大 | 80点  |
| 6位  | 同志社大  | 64点  |
| 7位  | 龍谷大   | 46点  |
| 8位  | 近畿大   | 45点  |
| 9位  | 大阪教育大 | 31点  |
| 10位 | 天理大   | 24点  |
| 11位 | 摂南大   | 21点  |
| 12位 | 大阪大   | 10点  |

### **女子総合成績**

|    |        |        |
|----|--------|--------|
| 1位 | 東大阪大   | 137点   |
| 2位 | 立命館大   | 104.5点 |
| 3位 | 武庫川女子大 | 75点    |

## 関西インカレ詳細

第1日目 (4月25日 長居公園周回)

### ハーフマラソン 決勝

|     |           |       |         |
|-----|-----------|-------|---------|
| 1位  | 池上 秀志 (1) | 京都教育大 | 1:06:27 |
| 2位  | 溝渕 大輔 (2) | 大阪経済大 | 1:08:35 |
| 3位  | 平井 幹 (3)  | 京都大   | 1:08:57 |
| 4位  | 横山 裕樹 (3) | 京都大   | 1:09:12 |
| 5位  | 岡田 将輝 (2) | 大阪学院大 | 1:09:16 |
| 6位  | 胸永 拓也 (3) | 兵庫県立大 | 1:09:18 |
| 7位  | 久本 駿輔 (3) | 京都工繊大 | 1:09:41 |
| 8位  | 谷本 旭洋 (2) | 大阪経済大 | 1:09:44 |
| 18位 | 荒木 伸哉 (3) | 京都大   | 1:16:03 |

前日からの予報通り、暑い中でスタートした関カレハーフ。先頭集団が速いペースで試合を運ぶ中、平井、横山、荒木の3選手は後方の集団で冷静に様子を伺う。レース中盤から、平井、横山の集団は前から落ちてきた選手を捕えつつ、4位集団を平井が引っ張る形でレースが進む。荒木は序盤で遅れ始め、厳しい単独走となってしまう。残り1周で横山がラストに向けてペースアップ。4位集団の前を走っていた大経を抜き去り、3位に浮上。20km過ぎに平井が横山を抜いて、平井、横山の順で3位4位でゴール。荒木は大半が単独走となってしまう苦しいレースとなってしまった。全体としてはランキングを4点分覆す素晴らしい結果となり、1部昇格に向けて良い流れを作るスタートとなった。(毛芝)

## ハーフマラソン終了時点での男子2部対校 得点

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 京都大   | 11点 |
| 2位 | 京都教育大 | 8点  |
| 2位 | 大阪経済大 | 8点  |
| 4位 | 大阪学院大 | 4点  |
| 5位 | 兵庫県立大 | 3点  |
| 6位 | 京都工繊大 | 2点  |

第2日目 5月10日(木)  
長居第1陸上競技場

### 女子400m予選 (6組3着+6)

釜谷美翔子(3) 3組7着 1.00.56

春らしい陽気で絶好のコンディションの中女子400mが行われた。格上の選手が多く、釜谷は前半は抑えており、後半に追い上げたものの8着でゴールした。釜谷は冬に怪我をしており、その影響が心配であったが、最後までベストを尽くして走ってくれた。多目出場となるので、次の走りも全力で走って欲しい。(橋本)

### 400m予選 (4組3着+4)

庄司 真(2) 4組1着通過 49.93

長谷川 聡(4) 2組4着通過 50.44

男子400m予選には長谷川、庄司が出場する。(辻は体調不良のため棄権であるが、力のある選手なので今後に期待したい。)長谷川はスタートからしっかりと加速していき、前半から積極的に行く。しかし、ケガ明けで体力が戻っていなかったため、後半少しづつ後退した。3着取りのところ惜しくも4

着となるが、プラスで準決勝に。庄司は計器故障のため、再レースとなる。しかしイレギュラーもものともせず、リラックスした走りで準決勝へと駒を進めた。(吉川)

### **1500m 予選**(2組 4着+4)

水元 惟暁(4) 1組 2着通過 4.01.83  
小山 俊之(M2) 2組 2着通過 4.01.86  
水谷 浩人(3) 1組 13着 4.12.38

1組目には水元と水谷が出場した。水元は最初こそ集団の中間に位置していたが、半分を過ぎてその順位を上げ、残り1周の時点では先頭となる。後続のスパートにも呑まれず、2位で予選通過を果たした。水谷は後方集団につくが、徐々に先頭集団から離れる。後方集団も終盤にはばらけ、水谷は1人で走る形となり、予選敗退となった。2組目に出場した小山は集団から抜け出すと軽快に上がり、先頭に立つ。最後の1周は全体的にハイペースであったが、小山は後方を確認しつつ、力を温存しての予選通過となった。(夫津木)

### **女子 100m 予選**(6組 3着+6)

釜谷 美翔子(3) 5組 8着 13.03(-0.3)

天候がよく気温も丁度良い中で行われた女子100m。釜谷はスタートで他選手とやや差がつくものの、フォームを崩すことなく粘りの走りを見せる。ラストに追い上げを見せ前の選手との差を詰めるが、惜しくも及ばず最下位となってしまった。タイムは13秒台だが12秒台にあと少しというところだったので、健闘したといえる内容だろう。(鈴木)

### **100m 予選**(6組 3着+6)

吉田 繁治(M2) 6組 1着通過 10.75(-1.1)  
牧川 真央(3) 1組 1着通過 10.82(-1.8)  
眞武 俊輔(4) 4組 3着通過 11.16(-0.7)

関西インカレの2日目、晴天のもとで男子100mの予選が行われ、吉田、眞武、牧川が出場した。1組に出場した牧川は、スタートで頭一つ抜け出し、向かい風の中でもリードを保ったままゴールした。10"82という好記録で、この調子なら風次第では蒼穹新を狙えそう。4組に出場した眞武は、好スタートを見せるも後半の伸びがなく、3着でゴールした。準決勝では自分らしいレースを見せてほしい。6組に出場した吉田は、終始安定した走りを見せ、向かい風の中でもベストに近いレースだった。3人とも、準決・決勝ではさらなる好レースを展開して、表彰台を独占してほしい。(栗田)

### **400m 準決勝**(2組 3着+2)

庄司 真(2) 1組 1着通過 49.31 PB  
長谷川 聡(4) 2組 8着 51.47

1組には庄司が出場した。午前中に行われた予選よりもさらにキレのある走りを見せ、前半リラックスして入ると、後半もほぼペースを落とすことなく300m付近では単独の首位に躍り出た。ラストの100mも後ろを振り返る余裕を見せ、見事組1着でゴールし決勝へと確実につながる走りをした。また2組には長谷川が出場。前半はしっかりと体をのせていきスムーズな走りを見せたが、後半200mにさしかかるあたりから徐々

にパワー不足感が見受けられ、惜しくも決勝進出とはならなかった。(戸川)

### 1500m 決勝

|    |                 |           |
|----|-----------------|-----------|
| 1位 | 小山 俊之 (京都大 M2)  | 3. 58. 10 |
| 2位 | 野上 大介 (京都教育大 3) | 3. 58. 67 |
| 3位 | 岡本 渉 (和歌山大 3)   | 3. 58. 72 |
| 4位 | 水元 惟暁 (京都大 4)   | 3. 58. 73 |

小山と水元が決勝に出場した。小山と水元は一周目をまわった時点で、順に1・2位につけた。中盤は2人で集団を引っ張ったが、やはりラスト 400m のあたりでは皆が仕掛けてきた。その中で最初に飛び出したのは水元だった。しかし、小山はもはや貫禄の追い上げをみせ水元と先行の二人をかわし、結果としては後続を突き放してこの種目の優勝を飾った。水元も粘りを見せたが、2人にゴール目前にして抜かれ惜しくも4位となった。(夫津木)

### 女子 4×100mR 予選(3組2着+2)

宮崎伶菜-熊澤真奈-加奈山憲代-釜谷美翔子  
2組7着 51. 52

走順が新しくなった女子4継メンバーが登場。最初のリレー種目ということで応援席は大きな盛り上がりを見せる。1走宮崎は良いスタートを見せたが、他選手から少々遅れをとってしまう。少し詰まり気味のパスで、バトンは2走熊澤へ。差を広げることなく追い上げ、安定したパスで3走加奈山へ。加奈山も綺麗なコーナーリングで前との差を維持し、4走釜谷へバトンパス。懸命の追い上げを見せたが、あまり差を縮められないまま7着でゴール。他チームとの実力差が表れたレースとなってしまった

が、タイムはチームベスト。確実に成長している彼女らの姿に、京大勢は大きな感銘を受けた。(鈴木)

### 4×100mR 予選(3組2着+2)

水上裕介-吉田繁治-牧川真央-眞武俊輔

2組1着通過 40. 91 **蒼穹新**

男子4×100mリレー予選は水上、吉田、牧川、眞武の走順。この内三人は先ほどの100m予選を突破しており好記録が期待できる。1走水上は素晴らしいスタート、吉田とのバトンは少し詰まったが吉田がバックストレートをぐんぐん飛ばし、神大の森本に引けを取らない走り。牧川にバトンが渡ると素晴らしいコーナーリングさばきで勝負はもう決まり、4走眞武は楽々と一着でゴールした。フィニッシュタイムは40秒91で蒼穹新記録を叩き出し、決勝での優勝はおろか全カレ標準である40秒80の突破も期待できるレースとなった。(庄司)

### ハンマー投決勝

|     |                 |        |
|-----|-----------------|--------|
| 1位  | 森村 友祥 (びわスポ大 4) | 52. 59 |
| 2位  | 内藤 克己 (和歌山大 3)  | 50. 90 |
| 3位  | 今田 雄大 (びわスポ大 3) | 49. 45 |
| 13位 | 林 真幸 (京都大 3)    | 33. 68 |

林[33. 68-32. 58-33. 04]

少し曇っていた天気も晴れ、気温が上がる中で男子ハンマー投は始まった。出場するのは、先日の京カレでベストを更新した林である。京カレの時と同じ2回のターンで投げた。一投目で33m68を出し、二投目で記録を落とすが、3投目で粘り記録を上げてきた。しかし格上選手ばかりの中で力及ばなかった。伸びてきているので、今後の

活躍に期待したい。(吉川)

### 十種競技(前半)

菅原 知紘(3) 3205 点  
[100m11.80(+0.5)(691)-LJ6.30(+0.8)(652)-SP8.08(371)-HJ1.92(731)-400m51.21(760)]

大カレでもなかなかの結果を残した菅原が出場。100mではスタートで少し出遅れたものの、後半に粘りをみせ見事セカンドベスト。走幅跳では少々体勢を崩しながらも2本目に記録を伸ばし、6m30の好記録。砲丸投では身長を活かした投擲で1投目に自己ベストタイ。走高跳では1m92まで安定した跳躍を見せたものの、ベストタイの1m95には届かなかった。400mでは前半抑えつつも後半にももの凄い追い上げを見せ2着でフィニッシュ。前半5種目を良い形で締めくくり、翌日の活躍にも期待を抱かせることとなった。(森田)

### 対校得点(2日目終了時点)

1位 京都大 24点  
1位 京都教育大 24点  
3位 びわスポ大 14点

第3日目 5月11日(金)  
長居第1陸上競技場

### 100m 準決勝(3組2着+2)

牧川 真央(3) 1組1着通過 10.76(+1.0)  
吉田 繁治(M2) 3組2着通過 10.90(-0.4)  
眞武 俊輔(4) 2組3着 11.06(-0.5)

男子100m準決勝には牧川、眞武、吉田が出

場した。牧川は、一度フライングがあったものの落ち着いたスタートから中盤で抜け出し無難に決勝を決める。眞武は不調の中ラストまで接戦に持ち込んだが、惜しくも3着。プラスでも100分の1秒差で拾われず決勝を逃した。院生ながら今期好調の吉田は、この準決勝でもやはり切れのある走りで2着にはいり決勝に進んだ。(川本)

### 女子 3000mSC 決勝

1位 奥野 有紀子(京都産業大 2) 10.51.74  
2位 佐藤 奈々(京都教育大 M1) 10.57.76  
3位 海野 佳那(京都産業大 3) 10.59.30  
11位 三村 有葉(京都大 3) 12.49.90

風はあまり吹いていないが昼前になっても気温が上がりきらず、肌寒さの感じられる中今レースは行われた。三村は後方に位置し、着々と周回を重ねた。集団から離れ、1人で走るようになったが、大幅にペースを崩すことはなかった。毎回の水濤で水に身体の半分が浸かりつつも、ハードルに関しては安定して飛び越え大きなミスなかった。入賞こそ出来なかったものの、悪コンディションにおいて自己記録に迫る走りをみせた。(夫津木)

### 400m 決勝

1位 東野 誠道(びわスポ大 3) 48.19  
2位 田中 諒(神戸大 2) 48.70  
3位 亀坂 晃司(大阪市立大 4) 48.74  
4位 庄司 真(京都大 2) 49.24 PB

準決勝を自己ベストで通過した庄司。リラックスしてバックストレートへ。前半はまわりから少し遅れる展開となったが、後半

型ゆえ、心配無用。200m を通過してもスピードは落ちない。接戦の中ラスト 100m で粘り強さを見せ、5 位と 0.1 秒差での 4 位。記録はまたも自己ベスト。事前ランキングを覆し、大舞台での勝負強さを見せつけるレースとなった。(蔭山)



ランキングを大きく覆し入賞した庄司

### **110mH 決勝**(+1.5)

- |     |                 |           |
|-----|-----------------|-----------|
| 1 位 | 村上 眞生(びわスポ大 2)  | 14. 48    |
| 2 位 | 内賀嶋 陽史(大阪府立大 3) | 14. 53    |
| 3 位 | 牧川 真央(京都大 3)    | 14. 96 PB |
| 5 位 | 栗林 健一(京都大 3)    | 15. 08    |

一発決勝となったこの種目、京大からは栗林と牧川の 2 名が出場した。ランキングからすれば両者は同位の 3 位(15.07)ゆえ、11 点の大量得点が見込めるこのレース。栗林は持ち前の丁寧なハードリングを見せ 6 台目まで 2 位争いをする展開だったが 7 台目あたりからリード足がうまく上がりきらず、ラスト 10 台目のハードルを越えてからゴールラインまで 2 人にかわされ惜しくも 5 位であった。一方の牧川は 1 台目のハードルこそ失敗したも

ののその後は持ち直し、持ち前のスプリント力を生かしてラスト 10 台目のハードルを越えてから 2 人をかわし見事 PB となる 14.96 で 3 位だった。(戸川)

### **100m 決勝**(-0.3)

- |     |               |        |
|-----|---------------|--------|
| 1 位 | 牧川 真央(京都大 3)  | 10. 75 |
| 2 位 | 森本 克貴(神戸大 3)  | 10. 75 |
| 3 位 | 向井 大志(佛教大 3)  | 10. 79 |
| 4 位 | 吉田 繁治(京都大 M2) | 10. 90 |

肌寒い風が吹く曇天の中、男子 100m の決勝が行われ、京都大学からは吉田と牧川が出場した。抜群のスタートを決めた牧川は、大きなストライドと早いピッチで安定の走りを見せた。後半に強い神大の森本に追い上げられ、同タイムでゴールするも、着差で優勝をものにした。吉田は持ち前の力強い走りで、強豪揃いの混戦したレースの中、見事 4 位を勝ち取った。二人の勝負強さが光るレースだった。(栗田)

### **5000m 決勝**

- |     |                |            |
|-----|----------------|------------|
| 1 位 | 小山 俊之(京都大 M2)  | 14. 40. 44 |
| 2 位 | 山西 大貴(神戸大 M2)  | 14. 42. 17 |
| 3 位 | 池上 秀志(京都教育大 1) | 14. 43. 02 |
| 9 位 | 久好 哲郎(京都大 3)   | 15. 07. 37 |

5000m はタイムレース決勝で行われ、小山と久好は二組目に出場した。序盤は 2 人が並び、先頭集団のやや後方に控える。レースが動いたのは、3000m を過ぎたあたりで、小山を含む先頭の 4,5 人で加速する。久好はこの場面で先頭に離されるが粘りを見せる。結局ラスト 1 周を 3 人で迎えた小山は半周を過ぎてもつれた固まりを抜け出しこ

の種目 3 連覇を飾った。久好も後ろからの  
気迫の追い上げを見せ、入賞こそ出来な  
かったものの幾人かをかわし 9 位でゴールした。  
(夫津木)



最後の関カレで見事二冠に輝いた小山俊

#### **4 × 400mR 予選** (3 組 2 着+2)

花岡洋介-谷口裕幸-堀江一司-森裕貴

2 組 2 着通過 3. 20. 63

マイルには庄司を温存したメンバーで出場。  
1 走を何度も務めている花岡はスタートか  
ら全く危なげない走りを見せ、ホームスト  
レートに入る頃にはトップに。そのまま後  
続に差をつけてバトンを 2 走に渡す。マイ  
ル経験の豊富な 2 走の谷口は持ち前のスピ  
ードを活かし終始快走。花岡が作ったリー  
ドをしっかりと守りきる。3 走堀江もピッチ  
のあまり落ちない堅実な走りでリードを死  
守。4 走森のところどころでさらにリードが広がる。しかし最後はきつくなってしまったのか、ゴール直前で 1 人に抜かされてしまった。結果的には 2 着での決勝進出となった。  
(鈴木)

#### **三段跳決勝**

1 位 西村 優汰(京都大 3) 14. 43(-0. 6)  
2 位 山中 敬雄(大阪府立大 4) 14. 36(-1. 0)  
3 位 矢野 達哉(大阪府立大 3) 14. 23(-2. 0)  
13 位 日浦 幹(京都大 2) 12. 89(-0. 8)  
西村[13. 98-14. 35-14. 43-14. 38-×-×]  
日浦[12. 89-12. 65-×]

気温が低い中行われた三段跳び。昨年ベ  
ストを更新した西村、日浦が出場した。日浦  
は 1 本目から上手く足をあわせて 12m89cm  
だった。2 本目も上手く足をあわせて 12m  
65cm だった。3 本目は記録が伸びたかと思  
われたが惜しくも F だった。怪我明けのこ  
とを考慮しても今後の記録に期待できる。  
西村は 1 本目は足が合わず 13m98cm だっ  
たが 2 本目からは足をあわせて 14m35cm に記  
録を伸ばす。3 本目は助走距離を伸ばして  
跳躍し、14m43cm に記録を伸ばし優勝した。  
(岡田)

#### **砲丸投決勝**

1 位 今北 雄太(京都教育大 M1) 14. 41  
2 位 中村 圭一(京都教育大 2) 14. 15  
3 位 越智 祐太(京都教育大 4) 13. 31  
12 位 山本 裕太(京都大 1) 10. 30  
山本[10. 23-10. 30-×]

砲丸投には新人の山本が出場。丁度日差  
しも出始め、良いコンディションの中で行わ  
れた。山本は浪人のブランクを感じさせな  
いダイナミックな動きでスローイングし、2  
投目は記録を伸ばす。3 投目は 11m に届く  
かと思われたが、体が回転に耐えきれずサ

一クル外に出てしまい、惜しくもファール。結果的に10m30cmであったが、周りの選手と比べると線が細く、まだまだ伸びしろがあると思われる。今後の飛躍を印象付けるようなデビュー戦であった。(鈴木)

### **女子棒高跳決勝**

- 1位 竜田 夏苗(武庫川女子大 2) 3.90
- 2位 高須賀 優(関西学院大 4) 3.80
- 3位 柏崎 浩代(大阪体育大 4) 3.60
- 11位 宮崎 伶菜(京大 2) 2.40

少し肌寒い気候のもと、関西インカレの2日目に行われた女子棒高跳には、宮崎が出場した。2m40を軽やかに跳びこえたものの、続く2m60を越えることは出来なかった。動きは決して悪いものでは無かったが、2m80という記録を持っている宮崎としては、悔いの残る試合であったように思われる。(栗田)

### **十種競技(後半)**

菅原 知紘(3) 2529点  
[110mH17.39(+0.4)(584)-DT20.53(282)-PV  
3.00(357)-JT 46.60(538)-1500m 4.26.48  
(768)]

後半戦に突入した十種競技。110mHは中盤から差をつけられ、終盤粘るも及ばず6着でフィニッシュ。円盤投は3回目で記録を伸ばしたが、ベストの投擲はできなかった模様。棒高跳は3mまで順調に跳んだが、3m20cmで失敗。しかしこれから跳べそうな兆しが伺えた。やり投は1投目でベストを3m伸ばした。ガッツポーズがとても印象的であった。1500mは序盤から先頭集団に食

らいつき、残り600mのあたりで2位に躍り出る。そしてラストの直線で驚異的な追い上げを見せ、トップを抜き去り1位を獲得。最後まで全力のパフォーマンスを見せてくれた菅原の姿は、京大の4日目以降の活力となったであろう。(堀井)

### **十種競技(総合)**

- 1位 水谷 雄仁(京都教育大 4) 6501点
- 2位 中村 銀太(京都教育大 2) 6207点
- 3位 山内 雄貴(京都教育大 M1) 5932点
- 6位 菅原 知紘(京大 3) 5734点PB

### **対校得点(3日目終了時点)**

- 1位 京都教育大 89点
- 2位 京大 71点
- 3位 びわスポ大 57点

第4日目 5月12日(土)

長居第1陸上競技場

### **女子200m予選**(6組3着+6)

釜谷 美翔子(3) 4組7着 26.97(-0.2)PB

午前中の多少の肌寒さの中で行われた女子200m予選。連日出場中の釜谷が登場し皆を湧かせる。釜谷は良いスタートを切るも、コーナーを出るまでに他選手と少し距離をあけられてしまう。しかし後半に持ち味の粘りを発揮し、前との差を徐々に縮めていく。最終的には最下位に終わってしまったが、記録は自己ベスト。疲れが蓄積した中でも好記録を出した釜谷の姿は、皆に良い刺激を与えたであろう。(鈴木)

### **200m 予選**(4組3着+4)

水上 裕介(3) 2組1着通過 21.75(+1.3)PB  
眞武 俊輔(4) 3組2着通過 22.24(+1.5)  
牧川 真央(3) 4組1着通過 22.33(+0.4)

200mでも4継メンバーから3人の出場。4継で1走を務める水上は抜群のコーナーリングで快走し、トップで直線に入る。後続が徐々に迫ってきたが、トップを譲らずそのままフィニッシュ。公認の21秒台という素晴らしい結果となった。眞武は外レーンを走る神大・森本に序盤からしっかり食らいつき、そのまま直線へ。後続がすぐ後ろまで迫ってきたが、何とか逃げ切り着順での通過を果たした。牧川は圧巻のスタートで飛び出すと、コーナーを抜けたころには余裕のトップに。後半は流す余裕も見せ、予選を楽々と通過してみせた。3人が着順で通過する、良い滑り出しとなった。(鈴木)

### **女子 800m 予選**(5組4着+4)

岩橋 優(4) 5組3着通過 2.16.66  
加奈山 憲代(4) 3組5着 2.24.21

天候はくもり、気温の低い中、女子800m予選は始まった。3組の加奈山は、前半リラックスした走りをして、組のランキング通り6位につける。2周目粘りの走りを見せ、1人抜かし5位でゴール。目標としていた2分25秒を切った。5組の岩橋は1周目4位につけ、そのままの順位でラストまで行く。1人抜かれてしまうが抜き返し3位。準決勝へと駒を進めた。(吉川)

### **800m 予選**(4組3着+4)

中井 一宏(2) 3組4着通過 1.57.54

水元 惟暁(4) 4組2着通過 1.58.32  
大川 亮 (5) 2組3着通過 1.58.81

800mには中距離のエース三人が出場する。大川は500m付近まで集団の後半について行き、ラスト100mで切り替え2着でゴールした。水元は前半から積極的なレースをし、最後の方まで1位を守ったが、最終的には2着でフィニッシュした。中井は途中までレースを引っ張ったが、ラストで抜かれ4着だった。だがプラスで拾われ、全員で準決勝進出を果たした。是非3人とも決勝に進出して大量点をもぎ取って欲しい。(橋本)

### **女子 400mH 予選**(4組3着+4)

釜谷 美翔子(3) 2組6着 1.05.48  
熊澤 真奈 (2) 3組6着 1.07.04

多少の青空が見え、あまり悪くないコンディションで行われた。女子400mH予選。2組目には5種目目の出場となる釜谷が登場。スタートからバックストレートにかけてどんどん加速するも、コーナーにて徐々に減速し始める。ホームでも挽回とはいかず、ゴール直前で1人に抜かれる形で終わってしまった。3組目には熊澤が出場。バックで後続に追い上げられる厳しい展開に。ホームでも皆を追う形となっていたが、ラストパートで1人を抜かしゴールした。2人共準決には行けなかったが、女子2人が過酷な競技に果敢に挑んでいく姿は、必ずや皆の力となったことであろう。(鈴木)

### **400mH 予選**(2組3着+2)

蔭山 凌(2) 1組5着 55.66

ベストに 55 秒台前半を持ち、決勝進出の期待がかかる蔭山が出場。2 レーンからのスタートとなったが、前の選手らをどんどん追い上げる。バックストレートでは少し歩数がずれたのか、多少の距離が開いてしまったものの、粘り強さを発揮しコーナーから再び追い上げ。ラストの直線でも渾身のスパートを見せ、2 人を抜かしてフィニッシュ。決勝に進出したかと思われたが、惜しくも 9 位となってしまった。今回は残念な結果となってしまったが、彼のポテンシャルはまだこんなものではない。この悔しさをバネに次回は奮起してくれるであろう。(鈴木)

### **3000mSC 決勝**

|      |                |         |
|------|----------------|---------|
| 1 位  | 富山 恭平(大阪経済大 3) | 9.06.26 |
| 2 位  | 小西 雄大(滋賀大 3)   | 9.07.58 |
| 3 位  | 木村 友彦(甲南大 2)   | 9.08.70 |
| 9 位  | 不破 佑太(京都大 4)   | 9.39.59 |
| 13 位 | 荒木 伸哉(京都大 3)   | 9.54.57 |

3000mSC には、山田が欠場し不破と荒木が出場した。入りの 1000m がハイペースとなったため全体的にバラけた。不破は果敢に先頭集団に食い付き 5 位の位置を守る。荒木は徐々に先頭集団との差が開く。ハードリングに関しては、不破は大きなミスはなかったが、荒木は減速とともにキレを失ってしまう。終盤で不破は粘るが後続の追い上げに吞まれる形となり 9 位、入賞を逃した。荒木は後半からの 1 人で走る厳しい状況の中でゴールした。(夫津木)

### **200m 準決勝**(2 組 3 着+2)

牧川 真央(3) 1 組 2 着通過 21.85(+0.3)

水上 裕介(3) 2 組 3 着通過 22.11(-0.1)  
眞武 俊輔(4) 2 組 4 着 22.40(-0.1)

200m 準決勝には 1 組に牧川、2 組に水上と眞武が出場した。1 組の牧川は今回多種目に出場しており足の疲労が心配されたが、前半から爆発的な勢いで加速するとコーナーを抜けるあたりで組トップ争いをする展開となった。後半若干足が流れてしまったものの、組 2 着でゴールし着実に決勝へラウンドを進めた。また 2 組では予選で素晴らしい走りを見せた水上が前半から飛び出したが、これが逆に後半の失速につながってしまい、予選よりもタイムを落としてしまったものの、組 3 着に入りこちらも見事決勝進出を果たした。また同組眞武も前半の 100m はよかったが、後半は体の重心が前に持ってこられず、あと一步のところ決勝進出を逃す形となった。(戸川)

### **女子 800m 準決勝**(3 組 2 着+2)

岩橋 優(4) 2 組 6 着 2.20.89

女子 800m 準決勝には岩橋が進出した。太陽が雲に隠れ、気温が上がらないコンディションでのスタート。バックストレートあたりから一列となり、岩橋は後方についた。1 周目はそれほど差は広がらなかったが、500m 付近からバラけ始め、600m に差し掛かったあたりで岩橋が 1 人抜いて 6 位になる。そこから 5 位の選手を追い上げるもあと一步のところ追い付くことはできなかった。決勝に進出することはできなかったが、1 部の選手と戦ったことで得たものは大きいはずだ。是非これからの対校戦でそれをいかしてもらいたい。(森田)

## 800m 準決勝(2組3着+2)

|          |        |         |
|----------|--------|---------|
| 水元 惟暁(4) | 2組2着通過 | 1.56.57 |
| 中井 一宏(2) | 2組2着通過 | 1.58.46 |
| 大川 亮(5)  | 2組8着   | 2.02.47 |

大川は予選での疲労のせいかスタートから精彩を欠き、残念ながら8着でゴールした。水元は序盤から三着につき、ラスト200mで一気にスパートをかけて決勝進出を果たした。中井は600m付近まで集団の後を走り、決勝進出が危ういと思われたが、中井らしい追い込みで見事に2着を勝ち取り、決勝の切符を手にした。京大のお家芸、800mで1点でも多く点をとってきてもらいたい。(橋本)

## 4×100mR 決勝

|                       |       |            |
|-----------------------|-------|------------|
| 1位 京都大                | 40.68 | <b>蒼穹新</b> |
| [水上裕介-吉田繁治-牧川真央-眞武俊輔] |       |            |
| 2位 びわスポ大              | 41.00 |            |
| 3位 神戸大                | 41.04 |            |

予選で蒼穹記録を更新し全カレ標準も期待出来る4継決勝。200mで大幅にベストを更新して好調の1走水上は1つ外レーンの神大との距離をぐんぐん縮める。100m4位だった2走の吉田は100m2位の神大の森本に食らいつく。先日の京カレで10"60の蒼穹記録を出し、100m優勝の3走の牧川は外を走る大学との距離を縮め、ほぼ同時に4走がスタート。3走と4走のバトンパスが上手くいき、個人種目は不本意な結果に終わってしまったためリレーにかけている4走眞武はパートチーフらしい力強さで激走。予選での記録を大きく上回り、全カレ標準を切る40秒68の1位でゴール。これから

も蒼穹記録の更新が期待出来る。(岡田)



全カレ標準突破で優勝した4継メンバー

## 女子走幅跳決勝

|                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| 1位 梶木 千妃呂(立命館大 4)                    | 6.17(-0.7) |
| 2位 柳 依里(天理大 3)                       | 5.65(-2.0) |
| 3位 宇都宮 絵莉(園田学園女子大 1)                 | 5.58(+0.2) |
| 26位 宮崎 伶菜(京都大 2)                     | 4.66(+0.0) |
| 宮崎[4.66(+0.0)-4.56(-0.3)-4.64(-1.3)] |            |

5月にしてはかなり肌寒い中、朝一で女子走り幅跳びが行われた。この日は、幅のピットが開くのが遅かったせいもあり、公式練習で満足に足合わせができないまま試技に移ることとなる。なかなかスピードに乗れず、本人が思うようには記録は伸びなかったが、3本ともぴったりと足を合わせてきたのはさすがであった。今シーズン、ファールが続いていた中ではしっかりと記録を残すことができ、レベルの高い選手たちの中で戦うことで収穫を得てきたに違いない。またこれから先さらに記録を伸ばしていくだろう。(中尾)

## 円盤投決勝

|     |                 |       |
|-----|-----------------|-------|
| 1位  | 今北 雄太(京都教育大 M1) | 43.90 |
| 2位  | 清水 貴幸(京都教育大 M1) | 41.47 |
| 3位  | 水島 淳 (京都教育大 3)  | 40.82 |
| 10位 | 矢川 勝太(京都大 M1)   | 29.51 |

矢川[29.10-29.51-×]

男子円盤投は風で肌寒い中、競技が開始された。1投目矢川は動きが小さくなってしまい30m手前で円盤が落ちてしまう。2投目もいまいち記録を伸ばすことができない。3投目は足が出てしまいファールとなってしまった。結果としては、10位に終わり、目標にしていたベスト8入りを逃してしまった。(林真)

## 走幅跳決勝

|    |                |            |
|----|----------------|------------|
| 1位 | 西村 優汰(京都大 3)   | 7.13(+2.8) |
| 2位 | 長末慎之介(大阪市立大 4) | 6.95(-0.5) |
| 3位 | 大黒 貴弘(大阪府立大 2) | 6.93(+0.5) |
| 9位 | 巽 浩之(京都大 3)    | 6.61(+0.0) |

西村 [7.03(+0.6)-×-ハ°ス-ハ°ス-ハ°ス-7.13(+2.8)]  
巽 [6.52(-1.2)-×-6.61(+0.0)]

走幅跳びには巽と三段跳び優勝の西村が出場した。西村は優勝は当然のことながら大会新、巽は得点獲得に期待がかかった。入賞を目指した巽は3本目に記録を伸ばしたものの、惜しくもベスト8に残ることはできなかった。西村は1本目で7mを越える跳躍を見せたが、2本目はファールし、3から5本目は体調不良のせいもあってパスした。優勝が決まってから跳んだ6本目はさらに記録を伸ばすことができた。確実に優勝を

決めてくれる西村の活躍にこれからも期待したい。(森田)



二冠に輝いた西村。今回もやはり勝負強さが光った。

## 走高跳決勝

|    |                |      |
|----|----------------|------|
| 1位 | 田中 英和(大阪府立大 3) | 2.00 |
| 2位 | 森 英輔 (神戸学院大 3) | 2.00 |
| 3位 | 澤田 裕貴(関西外語大 2) | 1.95 |
| 6位 | 菅原 知紘(京都大 3)   | 1.90 |

男子走り高跳びには菅原が出場した。菅原は今大会十種競技にも出ており、かなり疲れのたまっている中での試合となった。この日は安全に1m80から跳びはじめ、1m90まではすべて一発でクリア。しかし自己ベストタイである1m95は惜しくも失敗に終わってしまう。悔しいところではあるが、強豪がひしめき合う関カレAピットの中で果敢な跳躍を見せてくれ、京大に貴重な点を持ち帰ってくれた。1日も早く2mジャンパーとなることを期待している。(中尾)

## 対校得点(4日目終了時点)

- 1位 京都教育大 122点
- 2位 京都大 88.5点
- 3位 びわスポ大 76.5点

第5日目 5月13日(日)  
長居第1陸上競技場

## 10000mW 決勝

- 1位 丸尾 知司(びわスポ大 3) 41.40.97
- 2位 石田 研摩(びわスポ大 2) 42.42.95
- 3位 野喜 崇裕(神戸大 2) 43.40.79
- 11位 永田 和寛(京都大 4) 56.10.63

昨年、一昨年と失格になってしまっている永田。ここでその悔しさをぶつけてほしいところ。序盤、後方集団でスタートした永田は、離されずにしっかりとついていく。しかし、やや慎重になりすぎてしまったか、徐々に遅れはじめ、中盤以降は独りで歩く展開が続く。それでも最後まで粘りを見せ、見事に完走。残念ながら得点はできなかったものの、決して諦めないその姿勢は、京大に勢いをもたらした。(堀井)

## 10000m 決勝

- 1位 池上 秀志(京都教育大 1) 29.51.86
- 2位 山西 大貴(神戸大 M2) 30.42.01
- 3位 平井 幹(京都大 3) 30.43.72
- 4位 横山 裕樹(京都大 3) 30.44.97 PB
- 10位 小山 俊之(京都大 M2) 31.27.72

四日目の昼は気温が上がり、厳しい状況のなか10000mは行われた。前半は平井と小山が先頭集団に位置するが、京都教育大の池上が独走状態となる。印象的なことに、横

山が蓄えていた余力を発揮し平井に追いついた代わりに、就活が響いたのか小山が失速し次第に後続の選手に抜かれる。平井と横山はラストスパートでもよく動き、順に3位、4位とハーフマラソン同様に頼もしい結果を出してくれた。得点圏外の10位と非常に悔しい結果で小山の関西インカレは幕を閉じたが、最後の一年の小山の活躍を京大陸上部で望まない者はいない。(夫津木)

## 800m 決勝

- 1位 岡本 渉(岡山大 3) 1.53.50
- 2位 水元 惟暁(京都大 4) 1.54.53 PB
- 3位 福崎 奨萌(びわスポ大 4) 1.54.86
- 8位 中井 一宏(京都大 2) 1.56.85 CB

水元は冷静にレースを展開した。1周目は集団の後に付いていき、2周目は、すーっと抜け出し、2位を死守した。主将の意地を見せ、最後まで粘ってくれた。中井は序盤から位置取りが悪く、ラスト200mでスパートをかけるも前の選手に行く手を阻まれ8位だった。またゴールではなだれ込むようにフィニッシュし、闘志を見せてくれた。応援にも熱のはいる試合だった。(橋本)



2位となる健闘を見せた主将の水元

## 200m 決勝(+0.0)

- 1位 森本 克貴(神戸大 3) 21.38
- 2位 牧川 真央(京都大 3) 21.53 PB
- 3位 向井 大志(佛教大 3) 21.56
- 6位 水上 裕介(京都大 3) 21.97

関西インカレ最終日、男子 200m の決勝が行われ、牧川と水上が出場した。牧川は、スタートとカーブでの好走が光り、また後半も安定した走りで 2 着、自己ベストをマークした。昨日大幅にベストを更新する走りを見せた水上は、やや力みがあったせいかスタートで遅れをとる展開となったが、後半の粘り強い走りで挽回して 6 着でゴールした。関カレ前のランキングを大きく覆す素晴らしいレースだった。(栗田)



1人で大量得点を獲得した牧川。彼の成長は留まる所を知らない。

## 4×400mR 決勝

- 1位 びわスポ大 3.14.43
  - 2位 京都大 3.14.70
- [花岡洋祐-谷口裕幸-森裕貴-庄司真]

- 3位 佛教大 3.15.43

1 走花岡。勢い良くスタートを切り、力強く加速していく。200m 辺りで 1 つインレーンの大産大に追い抜かれ、レース早々にヒヤリとさせられる。しかし焦る事なく自分のレースを展開し、ホームで巻き返した。2 走谷口はオープンになると同時に一気に内へ攻め寄り、バックで佛教大に次ぐ 2 位。カーブで、びわスポ大、大阪市立大が追い上げる。綺麗なバトンパスで 3 走森へ。森は冷静に後ろで構え、ラスト 100m からキレのある走りで抜け出した。びわスポ大を追う形で 4 走庄司へ。大きなストライドで差を徐々に縮め、バックで捕らえた。200m 地点から切り替え、突き放す。リレーは京大が二冠かと思いきや、ラストスパートをかけられ、びわスポ大に抜かれてしまう。惜しくもマイルの優勝を逃してしまったが、蒼穹歴代 5 位の好記録。非常にハイレベルなレースで関西インカレは幕を閉じた。(蔭山)

## 棒高跳決勝

- 1位 馬淵 将(びわスポ大 3) 4.60
- 2位 田中 皓介(京都大 M1) 4.60
- 3位 秋元 一志(京都大 M1) 4.60
- 7位 清水 宏幸(京都大 4) 3.80

気温の上がった大会 5 日目、期待の棒高跳びには田中、秋元、清水の 3 人が登場。清水は 3m80 を一回でクリアするも、ベストタイの 4m は惜しくも跳べず。しかしランキングは守った。今期好調の秋元は、スピードに乗って 4m60 を 2 回目で成功し、3 位入賞。同じく好調の田中は 4m60 を 1 回で跳んでジ

チャンプオフへ。惜しくも競り負け 2 位となった。2 人とも 4m80 は惜しい跳躍であったので、次こそは蒼穹新を期待したい。(宮崎)



優勝を逃すも、表彰台は譲らなかった秋元 (左) と田中 (右)

### やり投決勝

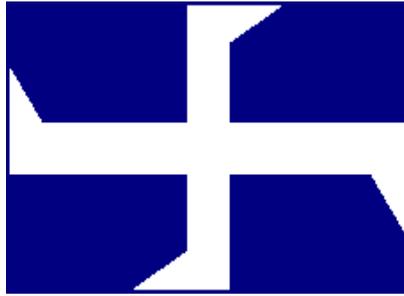
|      |                 |       |
|------|-----------------|-------|
| 1 位  | 大竹口 堯良(京都教育大 2) | 64.42 |
| 2 位  | 加奈川 崇徳(びわスポ大 4) | 63.50 |
| 3 位  | 迫田 裕太(京都教育大 2)  | 63.36 |
| 14 位 | 矢川 勝太(京都大 M1)   | 45.50 |

矢川[×-38.46-45.50]

男子やり投には M1 の矢川が出場した。矢川は研究室での研究が忙しくなかなか練習が積めていない中での出場だった上に、練習投擲の時に腰を痛めてしまい、満足に助走やブロックができず、十分に力を出し切ることなく試技を終えてしまった。研究室が忙しいかもしれないがもし来年関西インカレに出場したらその時こそは矢川の意地を見せてほしい。(神野)

平成 24 年度新入生名簿 (5 月 18 日現在)

| 名前     | 学部 | 出身高校 (都道府県) | パート | 種目・高校ベスト                            |
|--------|----|-------------|-----|-------------------------------------|
| 男子     |    |             |     |                                     |
| 阿部 健一  | 工  | 旭野 (愛知)     | 長   | 3000mSC 9' 37 5000m 15' 30          |
| 石田 真也  | 工  | 北野 (大阪)     | 跳   | 100m 10"87 走幅跳 7m07                 |
| 市川 和也  | 教育 | 岡崎西 (愛知)    | 中   | 800m 2' 00"11 1500m 4' 15           |
| 岡野 棕介  | 法  | 南陽 (京都)     | 長   |                                     |
| 奥 靖啓   | 経済 | 岸和田 (大阪)    | 短   | 400m 52"01 400mH 56"02              |
| 櫻井 大介  | 農  | 西京 (京都)     | 中   | 800m 1' 51"35 1500m 3' 55"30        |
| 佐藤 優斗  | 工  | 津 (三重)      | 短   | 110mH                               |
| 下迫田 啓太 | 法  | 千葉東 (千葉)    | 中   | 800m 1' 58 1500m 4' 03              |
| 寶 雄也   | 工  | 長野 (長野)     | 長   |                                     |
| 田中 智章  | 工  | 大手前 (大阪)    | 跳   | 走幅跳 6m09 三段跳 13m63                  |
| 辻 智彦   | 工  | 洛星 (京都)     | 短   | 100m 10"83 200m 22"31<br>400m 47"97 |
| 長崎 裕貴  | 工  | 北陸 (福井)     | 短   | 110mH                               |
| 南日 雄太郎 | 文  | 西武文理 (埼玉)   | 長   | 5000m 16' 40                        |
| 新田 一樹  | 工  | 桃山 (京都)     | 長   | 1500m 4' 00                         |
| 林 大祐   | 農  | 北野 (大阪)     | 短   | 100m 11"32 200m 22"81<br>走幅跳 6m34   |
| 俵谷 侑吾  | 工  | 天王寺 (大阪)    | 跳   | 走幅跳 6m45                            |
| 平井 健太郎 | 農  | 報徳学園 (兵庫)   | 長   | 5000m 14' 40"23                     |
| 松葉 悠剛  | 工  | 三国丘 (大阪)    | 長   | 5000m 15' 35                        |
| 宮垣 徹哉  | 経済 | 堀川 (京都)     | 短   | 100m 11"27                          |
| 山岡 隆央  | 工  | 西京 (京都)     | 跳   |                                     |
| 山本 裕太  | 工  | 半田 (愛知)     | 投   | 砲丸投 13m00                           |
| 若園 直樹  | 工  | 旭丘 (愛知)     | 投   | やり投 47m40                           |
| 女子     |    |             |     |                                     |
| 岩本 千尋  | 京女 | 土佐女子 (高知)   | マネ  |                                     |
| 加藤 彩季  | 工  | 岡崎 (愛知)     | 中   | 800m 2' 16                          |



---

蒼穹ニュース 平成24年度 第2号

平成24年5月20日 発行

---

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：鈴木將太・橋本宏平・夫津木廣大（副務）

特別協力：樋口裕磨・山口昌太（学連員）

吉川慶（記録係）・岡田洋（HP係）

写真担当：西田光治・西田峻・日浦幹

---

陸上競技部 HP<http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

陸上部記録 HP<http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス [101hawwww.9@ma.nasicnet.com](mailto:101hawwww.9@ma.nasicnet.com)(橋本)